

活動主題 「時代を超える孔子の教えの魅力に迫る」**活動の価値**

今から2500年前に生きた人の言葉が今にも残るといのは、奇跡に近い。それが『論語』の中の孔子の言葉である。「子曰く」からはじまる言葉は、世の中の平和を理想とした孔子の言行を弟子たちが記録として残したものである。その言葉には、人間が互いに愛情をもって接し合うこと、人格や道徳を高めることが平和につながるという孔子の思いや考え方が短い文で簡潔・明瞭に記されている。孔子の教えは、時代を超えて、私たちが生活であたりまえに大切にしていることに息づいており、現代を生きる私たちが『論語』、孔子の教えから多くのことを学ぶことができる。それは、論語の言葉にその時やその人に応じた生き方、考え方の指針が抽象化されて示されており、読み手によって様々な解釈をすることができるからである。このように、孔子の言葉は、多くの人の心を揺さぶり、困難の多い時代にあっても、私たちの行く道を示唆するものであり続けることが価値であると考えられる。

本活動は、論語の言葉を自分の経験と結び付けて読むことや言葉に表現された意味について考えることを通して、論語の言葉にある魅力に迫る活動である。この活動を通して子どもは、訓読に必要な漢文の読み方や「子曰く」と孔子の言葉からはじまる論語の特徴を理解することができる。また、論語に表現されている考え方を捉えるとともに、これまでの経験と照らし合わせ、自分の生き方に思いを巡らせることができる。さらに、論語の言葉の意味を自分の知識や経験、価値観と結びつけて考え、それを他者と交流することは、自分の経験や価値観を捉え直し、自己の考えを形成できることから意義深い活動であると考えられる。

子どもの実態

本学級の子ども（〇名）はこれまでに、漢文特有のリズムを味わい、訓読に必要なきまりを学び、故事成語や漢詩に関しての体験や出来事を文章にまとめたり、表現の効果を考えたりして古典に親しんできている。事前に行った調査によると、漢文の訓読に必要な返り点などの読み方を理解している子どもが〇名であった。漢文などの古典を読むことにおもしろさを感じている子どもが〇名おり、その理由として、「現代の文化や考え方の違いや共通点」や「独特な表現や言い回し」に魅力を感じている記述が見られた。おもしろさを感じていない子どもの記述には、「現代とは異なる言葉の意味理解が難しい」といった内容の記述が多く見られた。そのほかに、「書き手の意図や主張がわからない」「昔の文章を読む意味がわからない」といった記述も見られた。授業で学習した言葉（慣用句、四字熟語等）を日常使うことができると回答した子どもは〇名いて、具体的には、相手にわかりやすく伝えるときや考えを言い換える際に使うことがわかった。使わない子どもの記述には、難しい言葉自体を知らないことや使い方がわからないといった記述が見られた。

以上のことから、漢文の訓読に必要なきまりを理解している子どもは多いものの、現代と異なる意味で表現された古典作品を読むことに苦手意識をもつ子どもが多いことがわかった。また、古典作品に表れている、ものの見方や考えにおもしろさを見いだしている子どももいるが、古典を学ぶことへの意味を見いだすことができていない子どももいる。さらに、学習した言葉を日常生活で活用することに課題があることがわかった。したがって、論語に興味・関心をもった上で論語の言葉を解釈し、古典から現代につながる学びがあることを実感することができるよう援助する必要がある。その際、論語の言葉と自分の経験を結び付ける自己との対話や経験が異なる他者との対話を行い、考えを広げたり、深めたりしながら論語の言葉の価値に迫り、古典を読むことのおもしろさことに気づくことができるように援助する必要がある。

活動の援助観

そこで本活動では、漢文の読み方や論語の特徴を理解し、論語に表現されている考え方を捉えるとともにこれまでの経験と照らし合わせ、自分の生き方に思いを巡らせることができるようにすることをねらいとする。そのために、以下のような援助を行う。

- ・第一次では、論語に興味・関心をもつことができるように、大切にしている言葉を紹介し合う場と論語の言葉に触れる場を設定する。
- ・第二次では、論語に表現されている考え方を捉えることができるように、現代語訳の言い換え文章から考え、交流する場を設定する。また、論語をこれまでの経験とつなげて解釈することができるように、経験を振り返る視点を提示し、考えをつくる場を設定する。
- ・第三次では、論語と自分の生き方をつなげることができるように、メッセージカードを作成する活動とこれまでの学習を振り返る場を設定する。

○ 子どもの学習目標

論語の言葉が現代まで伝えられてきた理由を探究することができる。

○ 教師の援助目標

漢文の読み方や論語の特徴を理解し、論語に表現されている考え方を捉えるとともに、これまでの経験と照らし合わせ自分の生き方に思いを巡らせることができるようにする。

活動計画（4時間+α）

次	時	学習活動・内容	子どもの問いと思考	援助のねらい・内容・方法
一	1 ①	1 大切にしている言葉について考えていることを交流し学習課題を設定する。 (1) お気に入りの名言を紹介する。 ・名言（誰、いつ、どこ） ・気に入っている理由 (2) 紹介文を交流し、学習課題を設定し、論語を音読する。 学習課題 論語が現代も生き続けている理由に迫ろう。	大切にしている言葉にはどんな考え方や効果があるのかな。 古くから残されている論語にも、生き方の指針となる考え方がありそうだな。	論語の言葉に興味・関心を持ち、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ・論語の言葉に興味・関心をもつことができるように、教師のお気に入りの名言として論語の言葉を紹介する場を設定する。
	2 ②	2 論語の言葉を解釈する。 (1) 論語の特徴や漢文の読み方について確認する。 ・孔子、弟子の言行録 ・返り点 ・置き字 (2) 論語の言葉で共感する、納得する内容のものを選ぶ。 ・過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ ・君子和して同せず、小人は同じて和せず (3) 選んだ論語の言葉について解釈する。 ・過去の経験、適応場面、結果 ・試験勉強でうまくいかないことがあったのに、時間がないとか山が外れたと言いつつするのは、結果なにも変わらず、同じことを繰り返すことになり、これが過ちなのだと考えた (4) 考えを交流し、論語の言葉について考えたことを振り返る。 ・論語の言葉は人生観を表している ・人として大切なことを示している ・経験が抽象化して書かれている ・さまざまな経験も論語につながる	論語の言葉には孔子のどんな考え方が表現されているのかな。 論語の言葉は、当たり前だけど、生活していく上で人として大切なことを示しているからこそ、多くの人から今も生き続ける言葉なのだ。	漢文の読み方や論語の特徴を理解し、論語に表現されている考え方を捉えるとともに、これまでの経験と照らし合わせることができるようにする。 ・漢文の読み方や論語の特徴を理解することができるように、繰り返し音読する場や訓読文と書き下し文を比較する場を設定する。 ・論語に表現されている考え方を捉えることができるように、現代語訳を言い換える文章を考え、交流する場を設定する。 ・論語をこれまでの経験とつなげて解釈することができるように、経験を振り返る視点を提示し、考えをつくる場を設定する。
三	1 ① + α	3 未来に贈りたい論語の言葉を選び、メッセージカードを作る。 ・「子曰く、故きを温めて新しきを知る、以て師と為るべし。」 大きなこと、小さなことに関わらず、何かに挑戦するためには、過去を踏まえることが大切です。これから、より多くのことに挑戦するときは、過去から学ぶ姿勢を大切にしたい	他にはどんな論語の言葉があるのかな。 その人の状況や考え方に合うから論語の言葉は生き続けるのだろうな。悩んだときなどに論語を読んでいきたいな。	論語の言葉から自分の生き方に思い巡らせることができるようにする。 ・論語と生き方をつなげることができるように、メッセージカードを作成する場とこれまでの学習を振り返る場を設定する。

本時(2/2)



本時 公開授業 1 第3学年〇組教室 第二次の1時(2/2)

本時の援助観

前時までに子どもは、漢文の読み方や論語言葉の特徴を理解し、「論語」に表現されている考え方について触れ、共感したり納得したりできる論語の言葉を選んでいいる。そこで本時は、選んだ論語の言葉をこれまでの経験とつなぎ合わせて解釈することを通して、論語を読む価値について考える活動を設定する。

主眼

論語の意味をこれまでの経験と結びつけて解釈するとともに、選んだ論語の言葉の魅力について考え論語を読む価値について自分の考えをもつことができるようにする。

本時の過程

学習活動・内容	援助のねらい・内容・方法	形態	配時
<p>1 本時の学習をの方向性を確認する。</p> <p>(1) これまでの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論語の音読 ・ 選んだ論語の言葉 <p>(2) めあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 自分で選び、みんなから選ばれた論語の言葉の魅力を探ろう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 本時の学習の見通しをもつことができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選んだ論語の言葉について疑問をもつことができるように、論語を選んだ人数とその理由を問う。 ・ 本時の学習の見通しをもつことができるように、めあてを確認する場を設定する。 	一斉	5
<p>2 選んだ論語の言葉について解釈する。</p> <p>(1) 共感、納得した理由を考える。</p> <p>経験と考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ①子曰く、「過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ。」と。 試験勉強の取り組み方の失敗 同じ失敗を繰り返す、成長しない ・ ②子曰く、「君子は和して同せず。小人は同じて和せず」と。 友だちや学級審議での振る舞い 同調だけはつりあいがとれない ・ ③子曰く、「学びて思はざれば即ち罔し。思ひて学ばざれば即ち殆ふし。」と。 授業中や塾での学習への姿勢 知識を自分のものになりたい <p>(2) 論語の言葉を選んだ理由を比較し、論語の言葉について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 似たような経験が結びつくこと ・ 同じ論語から様々な経験につながる事 ・ 大切な考えや行動のあり方が示されていること ・ 孔子が大切にしたい生き方が示されていること 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 論語の言葉の意味をこれまでの経験と結びつけて解釈するとともに、選んだ論語の魅力について考えることができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論語の言葉の意味をこれまでの経験と結びつけて解釈することができるように、三角ロジックを使って考える場を設定する。その際、主張(考え)、根拠(論語の言葉)、理由(経験)の観点を示す。 ・ 論語の言葉の意味に経験を関連させて考えることができるように、三角ロジックの例文や論語の意味を言い換えた言葉を提示する。 ・ 選んだ論語の言葉の魅力について考えることができるように、選んだ論語が同じ者のグループに分かれて交流する場を設定する。その際、三角ロジックを比較する場を設定する。 ・ 考えた魅力について広げたり、深めたりすることができるように、学級集団で共有する場を設定する。 	個 ／ 小集団 ／ 学級集団	35
<p>3 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <p>(1) 本時の学習でわかったことやこれからの学習につなげたいことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論語と経験をつなげることで生き方の指針になる考え方ができることがわかった <p>(2) 振り返りを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の論語の言葉についても調べてみたい ・ ほかにどんな特徴や種類があるのか 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 論語を読む価値について自分の考えをもつことができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論語を読む価値について自分の考えをまとめることができるように、本時の学習を振り返る場を設定するとともに、論語に関する書籍を紹介する。 ・ 価値を理解し、次時の見通しができるように、振り返りを共有する場を設定する。 	個 ／ 一斉	10

活動の評価

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 音読に必要な漢文のきまりを知り、論語特有のリズムを通して、古典に親しむことができる。 現代語訳や語注などを手掛かりに論語を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考えを知ることができる。 長く親しまれている論語の一節を引用して使うことができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 論語を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて自分の意見をもつことができる。
主体的に学びに取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 言葉に表現された意味について考え、考えたことを伝えることができる。 言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を通じて自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを表現することができる。

※ 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学びに取り組む態度

次	時	学習活動	評価規準（観点：方法）	指導の個別化（手だて）
一	1 ①	<p>1 大切にしている言葉について考えていることを交流し学習課題を設定する。</p> <p>(1) お気に入りの名言を紹介する。</p> <p>(2) 紹介文を交流し、学習課題を設定し、論語を音読する。</p>	<p>言葉に表現された意味について考え、考えたことを伝えることができる。</p> <p>(態：学習プリント)</p>	<p>お気に入りの名言を見つけることができるように、日々の授業で四字熟語や故事成語、偉人の言葉を紹介する。また、うれしい言葉や励みになる言葉などを想起できるように問答する。</p> <p>紹介文を書くことができるように、お気に入りの理由について問答する。</p>
二	1 ②	<p>2 論語の言葉を解釈する。</p> <p>(1) 論語の特徴や漢文の読み方について確認する。</p>	<p>音読に必要な漢文のきまりを知り、論語特有のリズムを通して、古典に親しむことができる。</p> <p>(知：学習プリント)</p>	<p>返り点の特徴を理解することができるように、説明と例文が示したヒントカードを提示する。</p>
		<p>(2) 論語の言葉で共感する、納得する内容のものを選ぶ。</p>	<p>現代語訳や語注などを手掛かりに論語を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考えを知ることができる。</p> <p>(知：学習プリント)</p>	<p>文章中の語句の意味を確認し、状況が分かる言葉や具体的な場面について問答する。言動の例を提示して具体的な解釈を確認する。</p>
		<p>(3) 選んだ論語の言葉について解釈する。</p>	<p>長く親しまれている論語の言葉の一節を引用して使うことができる。</p> <p>(知：学習プリント)</p>	<p>論語の言葉と経験や考えを結びつけることができるように、具体的なモデルを提示する。</p>
		<p>(4) 考えを交流し、論語について考えたことを振り返る</p>	<p>論語を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>(思：学習プリント)</p>	<p>論語の言葉の魅力に気づくことができるように、交流した内容で共通点や相違点を整理するように促す。</p>
三	1 ①	<p>3 未来に贈りたい論語の言葉を選び、メッセージカードを作る。</p>	<p>言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を通じて自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを表現することができる。</p> <p>(態：学習プリント)</p>	<p>日常生活で大切にしたいと思ったことや改めて気づかされた論語の言葉を探すよう助言する。印象的な論語から似たエピソードを想起できるように経験をふまえて問答する。</p>